

留学先大学：ソウル大学

留学先での所属学部・研究科：政治外交学部・政治学専攻

留学先での在籍身分：交換留学生

留学期間：2012年03月～2012年28月

神戸大学での所属学部・研究科：国際文化学部

学年（出発時）：2年

本報告書記入日：2013年01月28日

授業について

留学中に履修した授業について記入してください。

No.	コース名	教授名	時間数 /週	留学先 での単 位数	履修し ている 学生数	予習、復習、テスト等についてアドバイスも含めて教えてください。
1	韓国語の語彙と表現	キム・チャンソプ	2.5	3	40	1時間15分の授業が週に2回。毎回の宿題と、中間テスト、期末テスト、期末レポート、それから自学自習資料が課されます。
2	韓国政治の分析と理解	イ・ジョンボク	2.5	3	120	1時間15分の授業が週に2回。課題1回と中間、期末テスト、出席で評価。特に毎回の予習はないが、教科書に沿って授業が進行されるので、進度に合わせて自分で教科書を読み進めて行く必要あり。
3	北朝鮮学概論	ペ・ヨンエ	3	3	80	3時間の授業が週に1回。中間、期末テスト、期末レポート、及び出席で評価。
4	朝鮮半島と国際政治	チョ・ドンジュン	3	3	120	3時間の授業が週に1回。中間、期末テスト、グループ課題2回、出席で評価。毎回リーディングが課され、約2週間に1冊のペース（早いときは1週間に1冊）で進行。テストは論述形式。
5	韓国政治論	カン・ウォンテク	2.5	3	80	1時間15分の授業が週に2回。中間テスト、レポート、期末テスト、出席で評価。テストは論述形式。
6	日本と東アジア	カン・ソンヒョン	3	3	40	3時間の授業が週に1回。学期の前半は教授による講義で後半は生徒による発表とディスカッションという形式でした。中間レポートと期末テストがあります。
7	韓国外交政策論	シン・ウッキ	3	3	80	3時間の授業が週に1回。3時間のうち2時間は教授による講義、残りの1時間は生徒による発表とディスカッションという形式でした。中間、期末テストがあります。
8	初級中国語2	イ・ミギョン	3.5	3	20	1時間15分の文法の授業が週に2回と1時間の会話の授業が週に1度あります。
9						
10						

授業（カリキュラム等）のクラスのサイズ、成績評価、現地学生の取り組み等

クラスのサイズは授業によって様々で、20人程度の少人数のものから120人程度の大講義まであります。どの学部の授業でも教養と専攻とではリーディングや課題の多さも大きく異なってくるので上手く調整しながら受講することをお勧めします。政治外交学部はリーディングの量が多いのでためてしまうとテスト前に大変なことになります。テストに関しては試験時間の延長や辞書持込み可など留学生に対して考慮してくれる教授も多いです。

費用について

留学期間を通して必要だった費用を記入してください。（概算で結構ですので、円価で記入してください。）

・航空運賃：約10万円

・住居費：（月額）1万円 ×（留学月数）10ヶ月 = 10万円

・食費：（月額）2万円 ×（留学月数）10ヶ月 = 20万円

・保険料：約10万円

・その他：30万円

合計：80万円（留学期間全体の費用）

その他 自由に記入してください。（800字～）

私はソウル大学で過ごした約10か月間、勉強面でも人付き合いの面でも本当に充実した時間を過ごすことが出来ました。振り返ってみると、このような充実した時間を過ごすことが出来たのは自分なりに様々な工夫をしたことが大きかったのではないかと思います。勉強の面では「韓国語がネイティブにはかなわないから」を理由にしないようしていました。グループワークをする際に特にこのことを意識しました。ソウル大学では一人で行うプレゼンテーションや課題よりも複数人で行うグループワークの方が多くありました。グループワークをする際には何度もミーティングを行い、ディスカッションをするのですが、その時に出来るだけ主体的に参加できるように工夫をしていました。例えば、プレゼンテーションの準備ならばミーティングの前に自分のアイデアを5個程準備しておいたり、本番ではメンバーの了解を得てあえて発表を担当したりしました。またディスカッションが求められる課題ならば事前に自分の意見、考えを文章化しておいて、ミーティング時に言葉に詰まったり、上手く伝わらなかった時にその資料を見せるようにしていました。外国から来た身として日本からの視点を求められる場合もあるのでその時も答えられるように準備していました。人それぞれ方法は異なると思いますが、特にグループワークをする場合にはネイティブたちの中でただ黙って人の意見を聞くだけでなく、いかに主体的に参加できるかが大切だと思います。

次に人付き合いに関してはやはりバトミントンサークルに入ったことが大きかったです。結果的に完全にサークルになじむまでには1学期程度を費やしたのですが、ここでも約10か月間だけいる「客」としてではなく、「部員」として見てもらえるように自分なりに工夫をしました。例えば私のサークルは週に3回活動があり出席は自由だったのですが、私は必ずサークルの時間帯には予定を入れず活動に参加し、現地の学生と一緒にレッスンも受けていました。また練習後に夜食を食べに行ったり飲み会も多かったのですが、それも極力参加するようにしていました。慣れるまではサークルに行こうかどうか迷ったり、飲み会の席でも会話のスピードが早くてついていけなかったり、聞き取れたとしても今度は笑いのコードが違うため何が面白いのか全くわからないという事も多々ありました。正直最初の方は嫌々行っていた側面の方が強かったです。しかし、時間が経つにつれて自分自身も慣れて行きますし、部員たちも受け入れてくれるようになりサークル以外でもよく遊びに行くようになりました。1学期目が主に交換留学生たちと共に過ごす時間が長かったならば、2学期目は勉強以外はほぼサークル活動が全てで、交換留学生というよりも現地の学生のような生活を送ることが出来ました。以上が、私がソウル大学での留学生生活を振り返ってみて心がけて良かったと思う点です。留学生生活の楽しみ方は人それぞれですが、私のこのような体験談が少しでも参考になればと思います。